

## (11) 九州



九州地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費はこのところ弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（  は上方に変更、  は下方に変更）。

### 前回からの主要変更点

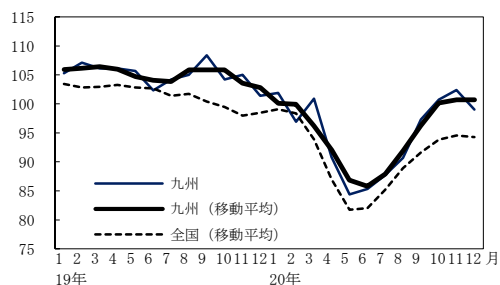
	前回（令和2年12月）	今回（令和3年3月）	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる	↓
個人消費	持ち直している	このところ弱含んでいる	↓

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直している。

10-12月期の鉱工業生産は、輸送機械は普通乗用車等が増加したこと、汎用・生産用・業務用機械は半導体製造装置等が増加したこと等により、前期比9.6%増となった。

鉱工業生産指数



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。  
2. 全国及び九州の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7-9 月期	10-12 月期	10月	11月	12月
電子部品・デバイス	13.6	8.0	9.4	▲12.3	4.2	10.6
輸送機械	13.5	50.6	17.2	8.7	▲1.8	▲5.6
食料品	12.2	▲0.4	▲0.4	2.2	▲3.5	0.9
汎用・生産用・業務用機械	12.2	▲9.1	22.9	25.6	8.2	▲14.4
化学・石油石炭製品	10.0	▲8.4	1.4	3.5	0.1	▲2.5
鉱工業	100.0	5.9	9.6	3.5	1.7	▲3.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10-12月期、12月は速報値。

## 2. 個人消費の動向

個人消費はこのところ弱含んでいる。

### (1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10-12月期は前期比3.0%増となった。月別にみると、10月は前月比1.7%増、11月は同0.5%減、12月は同0.1%増となった。

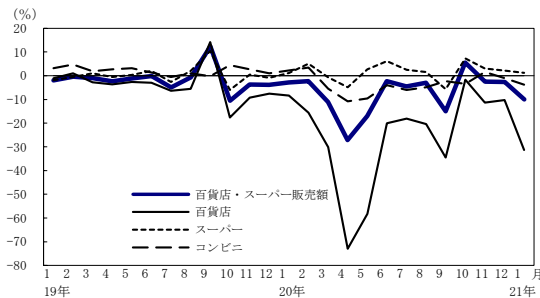
### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10-12月期は前年同期比0.3%減となった。月別にみると、10月は前年同月比5.5%増、11月は同2.5%減、12月は同2.6%減となった。

百貨店は、10-12月期は前年同期比8.4%減となった。

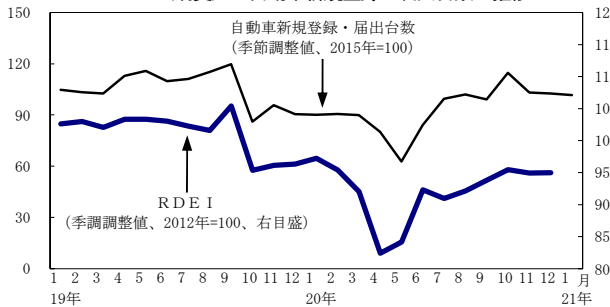
スーパーは、10-12月期は同3.9%増となった。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



	2020年	2020年	2020年	2020年	2021年
	10-12月	10月	11月	12月	1月
RDEI (消費*1)	3.0	1.7	▲0.5	0.1	—
百貨店・スーパー(*2)	▲0.3	5.5	▲2.5	▲2.6	▲9.9
百貨店(*3)	▲8.4	▲1.7	▲11.4	▲10.3	▲31.3
スーパー(*3)	3.9	7.3	3.0	2.1	1.2
コンビニ(*3)	▲1.0	▲3.5	1.6	▲1.0	▲3.8
乗用車(*4)	17.6	31.7	8.3	14.7	10.3
(季節調整値)(*4)	6.6	15.7	▲10.1	▲0.5	▲0.9

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。  
2021年1月は速報値。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。

コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。

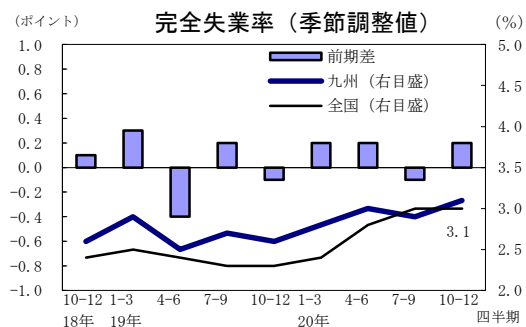
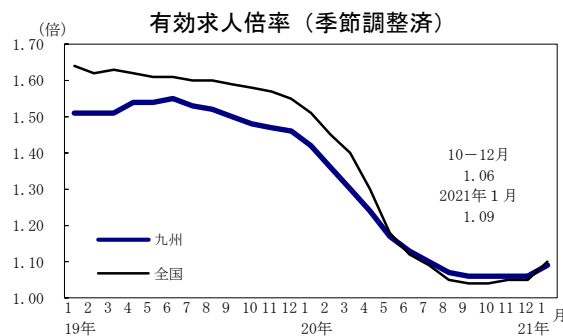
2021年1月は速報値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

## 3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年1月調査) 景気判断理由の概要

11. 九州

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野	判断	判断の理由
現状	×	・ 1月は2度目の緊急事態宣言が発出され、県内の客が全く来店しなくなっている。また、感染者も多く出ているため、動きも全くない(高級レストラン)。
		・ 新型コロナウイルス禍の新しい生活様式がある程度根付いているなかで、2度目の緊急事態宣言が発出され、消費者は買物の回数を減らしたり、1回当たりの購入額を増やす傾向が依然として続いている(スーパー)。
		・ 全国的に緊急事態宣言の発出を受け、客は基本的に外出を控えており買物に慎重である。この状況が、更に継続していくことが考えられる(百貨店)。
	×	・ 新型コロナウィルスの影響により、空気清浄器関連や映像商品が売上をけん引し、寒波の到来で暖房商品も順調に推移している。血中酸素濃度計等の新しい需要も生まれている(家電量販店)。
		・ 下期に入っているが、継続して高い生産台数を維持している(輸送用機械器具製造業)。
×	・ 緊急事態宣言発令の影響により、外食向け商品の動きが鈍っている。その他の貨物も少なからず影響を受けている(輸送業)。	
	・ 前年12月から新型コロナウイルス第3波の影響で、個人消費や企業生産活動に影を差している。半導体や脱炭素や医療関連産業等一部では回復の兆候が見られるものの、サービス業を中心として、新型コロナウイルス収束を見越していた企業の資金繰りにも悪影響が出始めていることから、3か月前と比較すると景気は悪化している(金融業)。	
雇用関連		・ 直近3か月は、求人数は連月上昇していたが、緊急事態宣言を受け、求人数が停滞している(人材派遣会社)。
		・ 求人数は夏以降徐々に増加傾向にあるが、業種に偏りがあり、一部の小売業では解雇も出ており、業種間で景気の濃淡がある(職業安定所)。
その他の特徴コメント		× : Go To Travelキャンペーンの一時停止と緊急事態宣言を受けて、客の動きがかなり悪くなっている(観光旅館組合) × : 再度の緊急事態宣言の影響で、特に夜の人出がないためタクシー利用がなく、当社では夜間の営業を中止している。昼間は通勤に利用する程度で、例年の半分ほどである(タクシー運転手)
分野	判断	判断の理由
先行き		・ 外出自粛が影響し、新しい衣料品を購入することも減少するため、客の動きが悪い状態が続く(衣料品専門店)。
		・ 緊急事態宣言やGo To Travelキャンペーンの停止の影響で、やや悪くなる(ゴルフ場)。
企業動向関連		・ 引き合い数は増加しているものの、客の受注に結び付くために提供できる新たな付加価値をいまだ見いだせていない(金属製品製造業)。
		・ 緊急事態宣言発出により、一層の消費の落ち込みが予測される。また、影響の長期化も予想しており厳しい状況になる(食料品製造業)。
雇用関連		・ ワクチン接種が成功し新型コロナウイルスが終息しない限り、企業の経済活動は進まないため、採用環境も好転する要素がなく、2~3か月後は、まだ同じ状態である(民間職業紹介機関)。
その他の特徴コメント		: 半導体関連の生産が、増加傾向であるとの市場予想に期待している(電気機械器具製造業) × : 新型コロナウイルスの終息が全くみえない現状では、景気が回復する気配を感じない。現在苦境に立たされている飲食業や旅行業以外の業種にも倒産や解雇等が広がっており、日用品以外の消費が、大きく落ち込むことが予想される(スナック)

(DI) 現状・先行き判断DI(九州)の推移(季節調整値)

